

課題名	74 ミヨウガの早出し栽培技術の確立	分類	①
	早出し用ミヨウガの適品種・系統の選定		
試験研究年次	60~63年(完了)		
I 目的 露地及びハウス栽培の早出しに適したミヨウガの品種・系統を選定し、ミヨウガ栽培技術改善の資料とする。			
II 試験方法			
1 供試品種 陣田早生、諏訪2号、早生2号、晩生2号、九重系(仮称) 宮原系(同)、光安系(同)、犀川2号(同)、小倉系1号(同) 同2号(同)、同3号(同)			
2 試験規模 1区 3~5㎡			
3 耕種概要			
(1) 植付期 露地:61年3月1日 ハウス:62年2月5日			
(2) 栽植間隔 露地:うね幅1.5m 1条植え ハウス:うね幅1.4m 2条植え			
(3) 施肥量 露地、ハウスともにN=15kg, P ₂ O ₅ =15kg, K ₂ O=15kg/10a			
(2) 栽培様式 露地は7~8月に黒寒冷紗1枚被覆 ハウス栽培は硬質温室のカーテン1層被覆で、61・62年は無加温栽培 63年は12℃の加温栽培で、保温開始は11月15日			
III 主要成果の概要			
1 露地及びハウス栽培の早出しに適したミヨウガの品種・系統を選定した。			
(1) 品種特性として萌芽・生育は‘陣田早生’が安定して早く、花蕾色は‘九重系’が最も濃紅色で、‘陣田早生’、‘早生2号’がこれに次いでいる。いずれもハウス栽培すると早期の花蕾は小さいが、無加温栽培での収穫開始期は露地より6~15日早まる。			
(2) 露地用の早出しには早生種で紅色の濃い‘陣田早生’と、安定した収量を示す‘諏訪2号’が有望である。			
(3) ハウス栽培の早出し用には早期収量が多い‘陣田早生’及び‘早生2号’、‘諏訪2号’が有望である。			

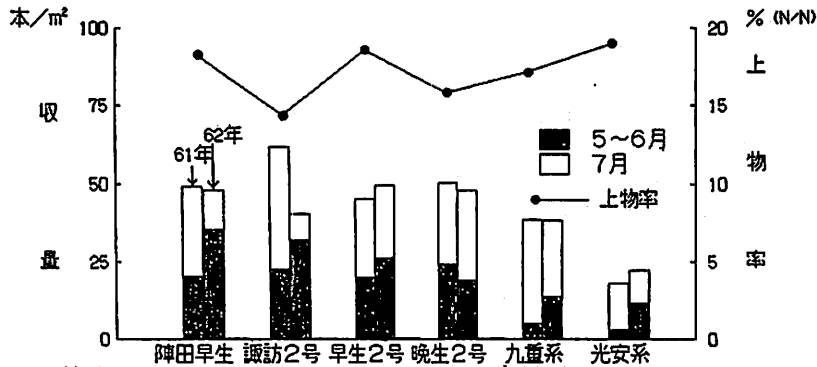
IV 主要成果の具体的データ

第1表 露地栽培における収量性比較

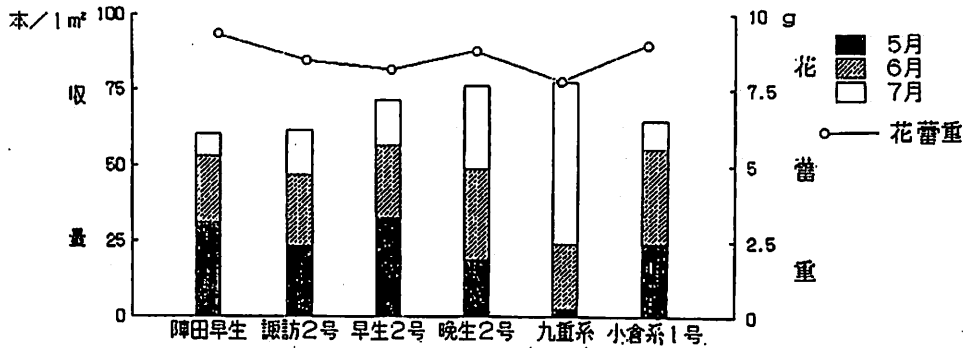
(63年)

品種・系統名	時期別花蕾数				総花蕾重 g	上物平均 花蕾重 g	上物率 (N/N) %	花蕾色
	6月	7月	8月	合計				
陣田早生	16.5	113.0	7.5	137.0	795	7.7	40.2	○
諏訪2号	3.0	123.5	19.5	146.0	902	8.1	44.5	△
早生2号	8.0	51.5	2.5	62.0	390	8.6	41.9	○
晩生2号	2.0	68.0	18.0	84.0	521	7.7	44.6	△
九重系	4.0	51.5	23.5	79.0	458	7.3	42.4	⊙
光安系	9.0	41.5	3.0	53.5	342	7.4	58.6	○
小倉系1号	7.0	101.0	15.5	123.5	725	7.2	48.4	△
同2号	12.0	108.5	14.0	132.5	808	7.4	45.6	○
同3号	8.0	78.0	12.0	99.0	574	7.5	41.6	△

注) ①収量は1㎡当たり ②花蕾色: ⊙(濃紅色) ~ ○~△(淡紅色)



第1図 ハウス無加温栽培における早期収量比較 (61・62年)
注) 上物率は62年の成績



第2図 ハウス加温栽培における早期収量比較 (63年)
注) 花蕾重は上物の平均花蕾重

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 7月以前の早出しは単価が高いため、ミョウガ栽培農家の経営改善の資料となる。
- 2 紅付きの優れた高品質花蕾生産には、敷料の施用と20℃前後の温度管理が望ましい。
- 3 根腐病やウイルス病の持込みに注意する。
- 4 優良系統は出来るだけウイルスフリー化を行い、生産力を高める。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 ウイルスによる被害程度の解明
- 2 ウイルスフリー苗の作出・増殖と生産力の検定

VII 資料名

61~平成元年度 福岡県農業総合試験場園芸研究所 野菜試験成績書